平成25年度　群馬パース大学　FD活動報告書

平成25年度のFD活動は、前年度までのFD活動の実績に基づき継続して活動を行うとともに、前年度より開始されたピアレビューの定着に取り組んだ。また、群馬パース大学FDポリシーの制定を受け、教員同士切磋琢磨しながら大学力向上という目標に向かって具現化を着々と進めた。

1.「学生による授業評価」の取り組み

1-1.　授業評価用アンケートの実施と結果の公開

学生のアンケートの回収率にばらつきがあったことから、周知方法や回収方法について検討を行った。回収方法については、昨年同様に電子媒体を使用するが、回収率が悪い学科と学年に対してはFD担当教員・職員が周知をし、回答率80％を目指すことになった。結果、授業アンケートの説明会出席率は、対象の全学科・学年において最終的に90％以上となり、回答率も最終的に85％以上となった。

1-2.　授業評価用アンケート結果の公開

ホームページ上で「学生による授業評価結果」の科目ごとの集計結果をpdf化し、自由記載も含めて広く閲覧できるようにした。

1-3.　実習用授業評価の検討

実習用の授業評価の検討が看護学科の委員により行われた。評価項目の選定まで行われており、今後、パイロットスタディを実施し、実用化に向けて検討を続けていく。

2. FD研修会・ワークショップの開催

今年度より、研修への参加についてポートフォリオを用いることとなり、研修参加者には受講終了記録簿に参加の証としての印鑑を押していくこととした。これにより、FD活動の蓄積が認識されモチベーションの向上が図れることが期待される。

2-1. 平成25年度FD研修会

「対象理解」に焦点をあて、『今どきの大学生』を知ることができ、授業デザインにも結び付く研修として FD 研修会を実施した。テーマを「学生理解に基づく授業の工夫」とし、講師に青山学院大学教育人間科学部教育学科　准教授　杉谷祐美子先生をお迎えし、平成 25 年 8 月 30 日（金）13:30～15:15 で実施した。参加者は教職員(非常勤含めて)47 名であった。

実施後アンケートは回収率 74.5％であり、全体的な感想は、「非常に参考になった」「参考になった」合わせて 91％であり、参考になった内容であったことがわかった。印象に残った点では「学生の大学観」「主体的な学び」「学生の意識に働きかける必要」「保護者への依存性」等があり、もっと知りたかった点としては「アクティブラーニングの具体例」「高大の接続について」「多様な背景を持つ学生

に対する授業の工夫」等があった。開催時期については91%が適当と回答したが、年度当初でもよいのではないかの意見もあった。研修会の様子は、ホームページに掲載された。

2-2.　平成25年度FDワークショップの開催

平成25年度研修会のテーマと事後アンケート結果より、「多様な学生気質に対する授業の工夫」を企画し、平成26年2月20日(木)16:00～18:00に開催した。昨年同様、ワールドカフェ形式（コアメンバーのみ残り、グループ全体が流動しながら、それぞれのグループの課題の集中型討議、ブレインストーミングを行うグループワーク）で実施し、37名の参加が得られた。

開催後のアンケートでは、92%が参考になったとし、話し合い自体についても89%が参考になったと回答していた。グループワークの成果(発表資料)はpdfにしてアンケート結果とともに教員に回覧し、学びを共有する機会を得た。

3.「教員相互による授業見学」の実施

平成24年度後期に実施した「相互授業見学」の仕組みをそのまま踏襲し、平成25年度も実施した。

昨年度、看護学科が後期に実習があり、参加できなかったことを踏まえ、前期・後期の年2回開催することとした。実施時期は、前期は7月1日～7月12日、後期は12月9日～12月20日の合計4週間を見学期間として設定した。前期44科目、後期33科目の授業見学受け入れがあり、述べ60名の教員が見学を行った。

4.定期的なFD部会開催とFD活動報告の作成、年報への収録

月1回定例にて会議を開催し、FD活動の企画・運営、情報収集など実施した。

5. FDネットワークつばさなど外部セミナーへの参加による 情報授受

FDネットワーク“つばさ”FD協議会(6/8 於山形大学)に参加し、他大学の教職員とFDに関する諸問題および対応策と問題意識を共有できた。また、FDネットワーク“つばさ”週刊授業改善エッセイに参加した。

FDネットワーク“つばさ”協議会より発信されるメーリングリストにFD部会長のアドレスを追加し、情報共有に務めた。

6.IR(Institutional Research)に関する検討

評価委員会からの依頼を受けて、「IRとは何か」を研修会の中心に据え検討を進めた結果、今年度は、まずは「IRとは」の啓蒙活動から行うこととし、IRの資料を配布し周知することとした。研修会については、IRの性格上、職員も参加が必要であることから、来年度の教職員が参加しやすい時期を選んで実施することとした。 IRの資料は「Between 2013年10-11月号■特集：IRで教学をマネジメントする～実践・進化のステージへ～ 進研アド」とした。

7.今後の活動について

平成 26 年度は、引き続き、学内外の情報収集や連携に加え、学生の能力向上に訴求しうる教育方法の実践性を高める工夫に務め、本学における教育のあり方を深めるため取り組んでいきたい。

1)「学生による授業評価」結果の組織的還元から活用

ｉ）実習科目用アンケートの作成(実施)

ⅱ）形成的評価の実施

・初期段階、中間実施などを視野に講義に活かすためのアンケート作成を今後も協議

2)ピアレビューの定着と授業改善に生かす取り組みの検討

3)FD 活動の活性化・充実化に向けた情報授受

①FD ネットワークつばさや地大学の FD セミナーへの参加

②FD 活動の学内・学外への発信の検討

・反転学習や IT を駆使した授業等、本学の学生に合った授業の展開ができるよう、様々な授業ツールを集めて学内に発信

・本学の FD 活動について広く発信していくことの検討

③FD-SD 連携に関する情報収集

4)FD 研修会開催

外部講師を招いての研修や学内研修など

5)FD ワークショップの開催

非常勤講師の参加も踏まえたワークショップ開催に向けた準備

6)IR に関する研修会の開催

7)FD 活動の年間計画の作成

8)FD 活動報告書（pdf 等での公開可能性を踏まえ）の作成、年報への収録

以上